小諸市動物園　開園100周年記念誌

100年のあゆみ

100th anniversary Commemorative publication



こもろしどうぶつえん
KOMORO ZOO

こもろしどうぶつえん
KOMORO ZOO

小諸市動物園 開園100周年記念誌

CONTENTS

・開園100周年を迎えて
　小諸市動物園 園長（小諸市長）小泉俊博 …… 2
・小諸市動物園基本理念 …… 3
・これからの小諸市動物園について
　小諸市動物園再整備事業有識者 …… 4～5
・こもろしどうぶつえん園内マップ …… 6～7
・動物園のなかまたち …… 8～9
・小諸市動物園100年のあゆみ …… 10～25
・思い出の小諸市動物園 …… 26～31
・動物園の人気者紹介 …… 32～33
・未来へつなぐ飼育のこころ …… 34～35
・こんなイベントやってきました …… 36～37
・小諸市動物園の取り組み …… 38～39

みなさまに愛され開園100年を迎えて



小諸市動物園長（小諸市長）　**小 泉 俊 博**

この度、小諸市動物園は開園100周年を迎えることができました。

大正15年（1926年）４月20日に開園した長野県最古の小諸市動物園は、戦後の動物たちがいなくなった苦難の時期を経て、昭和24年（1949年）の日本動物園水族館協会への加盟、ゾウやアシカ・トラ・ライオンといった大型動物の飼育等の歴史を刻んで参りました。令和８年４月時点で現存する動物園として、全国で５番目に古い動物園です。

この100年は、これまで動物園を支えてくださった皆様はもとより、市民の皆様とともに歩んできた歴史でもあります。

全国５番目の古さは、人口４万人の都市が運営を継続してきた動物園にとっては、市民の皆様の「愛」と小諸市動物園を設立してくれた先人たちの「熱い思い」の象徴として、誇るべきことです。

さて、近年の小諸市動物園では、動物たちを通じて命の大切さや動物の生態などを伝え、訪れる皆様に楽しく学んでいただける場を提供するとともに、ムササビやフクロウなどの保護動物の受け入れにも力を入れて時代の変化に適応してまいりました。また、令和３年からの動物園再整備では、既存飼育動物の新獣舎建設やアルパカなどの新しい仲間を迎えながら、世界の潮流となっている動物福祉への対応にも注力してまいりました。

これから始まる次の100年では、先人の動物園に込めた「思い」を基本としつつ、新たに「どうぶつたちとのふれあい・出会いを通じ学びに広げる」をテーマとして運営して参ります。日々の運営においても、動物たちの暮らしや生態をより深く理解していただく場として市民の皆様に愛される動物園を目指して飼育員を始め職員一同とともに全力を尽くしてまいります。

改めて小諸市動物園の100周年にあたり、皆様に感謝申し上げるとともに、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げ、小諸市動物園100周年記念誌の発行に際しての挨拶とさせていただきます。

令和８年４月

小諸市動物園基本理念

◆みんなに愛される動物園づくり
誰もが訪れたくなるような、魅力のある動物園をめざします。

◆動物福祉の向上
動物たちの快適な住環境を整備し、動物福祉を第一に考えます。

◆来園者体験の向上
来園者が「また行きたい」と思えるような、質の高い体験を提供することをめざします。

◆教育プログラムの拡充
出張講座や職場体験の受入れなどを通じて、動物や環境への理解を深める機会を増やします。

◆生物多様性への意識啓発
地元に生息する野生動物や絶滅危惧種の飼育やガイドを通じて、生物多様性や地球温暖化問題について考える機会を提供します。



これからの小諸市動物園について



公益社団法人日本動物園水族館協会顧問
成島　悦雄　様

おめでとう！ 小諸市動物園 開園100周年

小諸市動物園開園100周年、誠におめでとうございます。

小諸市動物園は、大正14（1925）年、当時の町長・隈部親信氏の発案により小諸城址の公園化が進められ、サルやシカ、コイなどを飼育する動物園として、大正15（1926）年4月20日に開園したと伺っています。長野県でもっとも古い動物園で、小規模ながらも、たいへん長い歴史を持っています。日本で最初の動物園である上野動物園は明治15（1882）年に開園していますので、小諸市動物園開園はその44年後のことになります。

動物園自体がまだ珍しかった時代に、長野県に動物園を実現させた隈部町長をはじめとする小諸の方々の情熱と先見性は、誠に素晴らしいものだったと思います。当時飼育されていたのは、私たちの身近にいる動物たちでした。珍しい動物を集めて展示するというよりも、身近な動物を通して自然に親しみ、地域の人々が楽しいひとときを過ごせる場を目指していたのではないでしょうか。

時代とともに、動物園に求められる役割も変化してきました。現在では、野生動物を守り、種を保存し、その生態を伝え、理解を深める場としての役割が期待されています。小諸市動物園もまた、そうした時代の要請に応えるべく、リニューアルを重ねてこられました。

これからも、未来を担う子どもたちが動物と親しみ、命の大切さを学ぶ場として、そして地域に根ざした自然を守り育てる拠点として、ますます発展されることを心より願っております。



元名古屋市東山動物園長　橋川　央　様

難攻不落の動物園

開園百周年おめでとうございます。

私が初めて小諸市動物園を訪れたのは、2013年の中部ブロック動物園水族館の園館長会議でした。その時、懐古園の自然豊かな環境がとても気持ちのいい場所だと感じたことを覚えています。

動物園を訪れる人はみんな何かしらの喜びや楽しみ、あるいは知識欲を満たすことを期待してやってきます。ですから豊かな気持ちや満足感に浸って帰ってほしいと思っています。来園者にとって動物園はそういう場所なのです。

小諸市動物園が百年続いてきたことは、そういうニーズに答えてきたとも言えます。ただ、時代とともに動物園には種の保存、環境教育、動物福祉など多様な要素が求められるようになってきました。現在行われている再整備では、ハード及びソフトの両面でそれらに対応できるように取り組むとともに、再整備を継続することで、計画をぜひ実現していっていただきたいと思います。

かつてそこにあった小諸城は、珍しい穴城で難攻不落と言われていたということを聞きましたが、その場所で百年続いている動物園はまさに難攻不落の動物園です。さらにこれからの百年を継続していかれることを期待しています。



成城大学法学部教授　打越　綾子　様

小諸市動物園を守っていくために

小諸市動物園と関わるようになったのは、2014年の大雪被害の最中でのシンポジウムでした。

たった12年前のことですが、当時の園内は危機的状況で、四畳半の檻に入っているツキノワグマ、まだ若いのに末期の腎不全になっていたライオン、運動不足で足の裏に痛みを抱えたペンギンたちが居ました。それでも、現場の飼育員さんが一生懸命心を込めて世話している様子を広く小諸市民に伝えて、動物園の苦境に気が付いてほしいと訴えました。

有り難いことに、そのシンポジウムを通じて、小諸市動物園に対する市民や市役所本庁・市議会からの理解が深まりました。その後はたくさんの声援が届き、予算も拡充されるようになりました。そして、展示方法の工夫や飼育員さんの増強、さらに２期にわたる獣舎の整備が行われることとなりました。

それでも、まだ古い獣舎は残っているし、どんなに気を付けていても人為的なミスで動物をめぐる事故が起きる可能性もあります。外に伝わったら批判を受けるかも…そういう状況に陥ることもあり得ましょう。

そんなときに、動物園と市役所の関係者に心得ておいていただきたいのは、「困った、どうしよう…」という時こそ、内部で解決しようとしてはならないということです。一刻も早く正直に外部の専門家に相談してほしい。風通しの良い開かれた動物園運営こそがこれからの小諸市動物園を守る理念であるとして心に刻んで頂けたらと思います。



帝京科学大学生命環境学部准教授　佐渡友　陽一　様

これからの小諸市動物園のあり方

100周年を迎えた小諸市動物園にとって重要なのは、時代の変化への対応でしょう。100年前の公園行政は独立採算でした。野生動物は動物商に頼めば入手できる時代もありました。今、住民生活のために公園は公費で経営するのが当然で、動物園は飼育個体群を維持する共同繁殖に取り組んでいます。

2018年のシンポジウムで私は「小諸市動物園はかなり独特で、施設と組織両面の改革が必要」とお伝えし、公立動物園であるにも関わらず、経費縮減のために人件費を大幅圧縮したことは、若者の夢を食いつぶして施設を延命している民営動物園に通じるものだと警告しました。博物館経営論ではコレクション・マネジメントと表現しますが、価値のある物を収集して維持管理するのは目利きの力と玄人の技という属人的な能力です。動物園に要求される維持管理の水準は、野生動物の繁殖や異常行動の抑止など飛躍的に高度化しました。これは属人的な能力ですから、人生を維持できる給与を提供して、専門的人材が育つ環境の確保が重要です。

上記のシンポジウムで申し上げた3つの主要な問題は（1）施設の老朽化（2）飼育技術の蓄積困難（3）獣医師の不在でした。その後、施設の面では一定の進捗がありましたが、組織面の進捗はいかがでしょうか。小諸市動物園が時代に見合った持続可能な動物園となるために、この100周年を重要な転機とされることを心より願っております。

こもろしどうぶつえん
園内マップ

こもろしどうぶつえんは、1926(大正15)年に開園した、
全国で5番目、長野県最古の動物園です。
2026(令和8)年に、100周年を迎えました。

園内は禁煙　ペットの持ち込み禁止

哺乳類	20種		
鳥　類	12種	合　計	40種
爬虫類	8種	2026年4月 現在	

懐古園（馬場）

白鶴橋　出入口

三の門側　出入口

スタッフルーム

里山エリア

サルエリア

十軒舎

インコ舎

シカ谷

ペンギン村

ふれあい広場

休憩所

アジルテナガザル
Agile Gibbon

ウコッケイ
Ukokkei Fowl (silky)

フサオマキザル
Tufted Capuchin

ホンドテン
Japanese Marten

ホンドギツネ
Japanese Red Fox

ホンドタヌキ
Japanese Raccoon Dog

フクロウ
Ural Owl

ジェフロイクモザル
Geoffroy's Spider Monkey

ポニー
Pony

ミニチュアホース
Miniature Horse

チリーフラミンゴ
Chilean Flamingo

インドクジャク
Indian Peafowl

タイハクオウム
White Cockatoo

キエリヒメコンゴウインコ
Golden-collared Macaw

コザクラインコ
Rosy-faced Lovebird

ヤギ
Goat

ヒツジ
Sheep

ミニブタ
Miniature Pig

ミシシッピアカミミガメ
red-eared slider

クサガメ
Reeves' pond turtle

イシガメ
Japanese pond turtle

ケヅメリクガメ
African Spurred Tortoise

ライオン
Lion

ルリコンゴウインコ
Blue-and-yellow Macaw

アルパカ
Alpaca

プレーリードッグ
Prairie Dog

チンチラ
Chinchilla

ムササビ
Japanese Giant Flying Squirrel

ウサギ
Rabbit

フンボルトペンギン
Humboldt penguin

モルモット
Guinea Pig

パンダマウス
Japanese fuzzy mouse

ヤクシカ
Yakushima Deer

動物園から遊園地には直接行くことが
できません。動物園を三の門料金所から出て、
右側の遊歩道をお進みください。(徒歩5分)

遊園地　メリーゴーランド　ツインドラゴン
コーヒーカップ　バッテリーカー
豆汽車　など

寒いのが苦手で、冬の間は見ることが
できません。

インコたち　リクガメたち　水棲ガメたち

三の門へ

遊園地へ

動物園のなかまたち



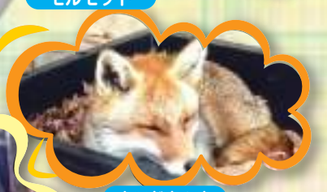
ライオン



アイガモ・カナダガン



モルモット



ホンドキツネ



タイハクオウム



ケヅメリクガメ



ホンドタヌキ



フサオマキザル



チリーフラミンゴ



ヤクシカ



ミニブタ

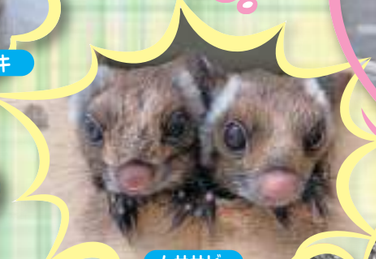


ウコッケイ



ポニー

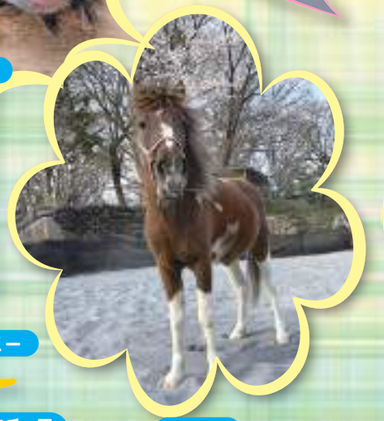
ミニチュアホース



ムササビ



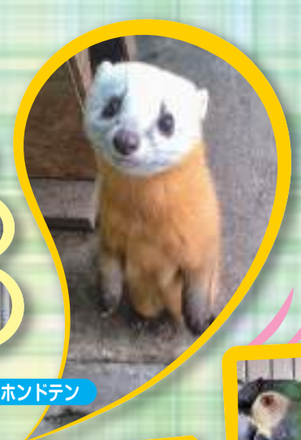
フクロウ



ポニー



ヨウム



ホンドテン



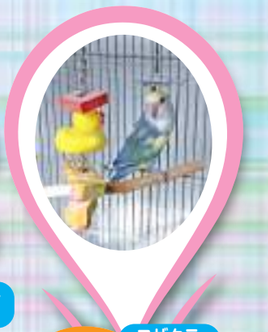
インドクジャク



キエリヒメコンゴウインコ



フンボルトペンギン



コザクラインコ



ミシシッピアカミミガメ

ニホンイシガメ

クサガメ



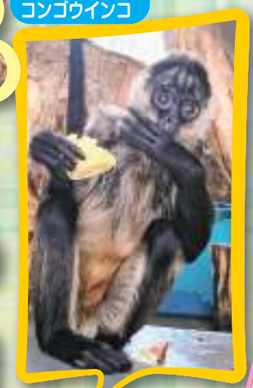
ヨツユビリクガメ



ギリシャリクガメ



インドホシガメ



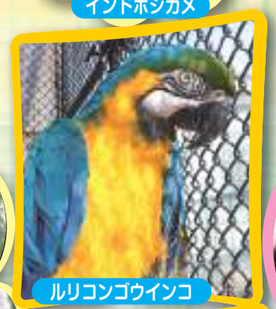
ジェフロイクモザル



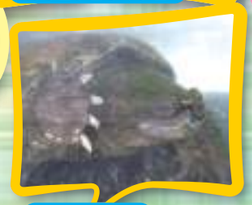
アジルテナガザル



シバヤギ



ルリコンゴウインコ



カミツキガメ

ヒツジ



パンダマウス

新しい仲間たち



チンチラ



ウサギ



プレーリードッグ



アルパカ



みんなの

小諸市動物園

History of 100 years

100年のあゆみ

小諸市動物園のはじまり

今から100年前の大正15年1月、隈部親信小諸町長は小諸に大きな公園をつくろうと、明治神宮の森をつくった本田静六林学博士に調査をお願し、本田博士は懐古園とその周りを細かく調査しました。その報告を受けて、隈部町長は小諸城址を中心とした公園をつくることを決めました。

まず、子供の遊び場として籾倉台（もみぐらだい）に動物園をつくるため、サル・クマ・ヒョウ・クジャク・ツルなどの動物を買うことを本田博士にお願いしました。

また、小諸商工会議所は臨時総会を開いて、「小諸公園設置に関する後援会」をつくり、動物園のために1,500円の寄附を募りました。

そして大正15年（1926年）4月に動物園が開園し、オス　メス2頭のシカが南谷で飼育され、7月にはサル14頭・クジャク1羽・ガチョウ1羽など10種類の鳥類が動物園に入りました。

昭和２年（1927年）3月には懐古園の馬場から動物園に通じる長さ十八間（約33m）、幅九尺（約２m70cm）の白鶴橋の工事がはじまり、動物園の整備が本格化されていきました。

小諸市動物園は長野県内で1番古く、全国で5番目に古い動物園です。

	園　　名	所　　在		創立年 ／ （和暦）	
1	東京都恩賜上野動物園	東京都	大東区	1882年	明治15年
2	京都市動物園	京都府	京都市	1903年	明治36年
3	地方独立行政法人　天王寺動物園	大阪府	天王寺区	1915年	大正４年
4	甲府市遊亀公園付属動物園	山梨県	甲府市	1919年	大正８年
5	小諸市動物園	長野県	小諸市	1926年	大正15年
6	熊本市動植物園	熊本県	熊本市	1929年	昭和４年
7	東京都立大島公園	東京都	大島町	1935年	昭和10年
8	名古屋市立東山動物園	愛知県	名古屋市	1937年	昭和12年
9	大牟田市動物園	福岡県	大牟田市	1941年	昭和16年
10	東京都井の頭自然文化園	東京都	武蔵野市	1942年	昭和17年

※令和6年度　日本動物園水族館年報による

History of 100 years

大正 15 年 から 昭和 20 年
（ 1926年 ～ 1945年 ）

大正15年 昭和元年（1926）

4月 小諸動物園創園
４月２０日、小諸城跡の籾蔵台（もみぐらだい）に面積約24,000㎡の敷地で開園
飼育動物はシカ、コイ等

6月 シカ２頭　南谷で飼育

7月 サル・クジャク・ガチョウなど１０種類の動物が来園

昭和２年（1927）

3月 動物園から本丸に通じる白鶴橋の工事がはじまる

昭和10年（1935）

4月 シカ１２頭（オス５頭メス７頭）、クジャク、キンケイ、ギンケイを飼育

動物用の菓子を売店にて販売（４個１銭）

11月 イノシシ２頭　東京都恩賜上野動物園より来園

昭和12年（1937） クマを飼育していた記録あり

昭和16年（1941）

12月 第二次世界大戦「動物非常処置要綱」発出

鳥類は近隣農家に飼育委託
シカは栄養失調により死亡

昭和20年（1945）

8月 第二次世界大戦終戦



当時の紹介記事から



昭和9年の小諸市動物園当時のサル舎前



昭和9年の小諸市動物園

100年のあゆみ History of 100 years

昭和 21 年 から 昭和 30 年
(1946年 ～ 1955年)

昭和21年 (1946)
飼育員２名体制になる
アカゲザル７頭飼育

昭和24年 (1949)
動物園水族館協会（現　日本動物園水族館協会）加入

9月 ツキノワグマ来園

11月 クジャク１羽（オス）東京都恩賜上野動物園より来園

昭和28年 (1953)
仔グマ２頭（オス･メス）保護飼育
ヌートリア2頭（オス・メス）
東京都恩賜上野動物園より来園

10月 第４回東信写生大会「秋の懐古園写生大会」開催　3,902名

飼育動物数
サル６頭、クマ１頭、ニホンジカ３頭、イノシシ１頭、タヌキ３頭、キツネ１頭、クジャク1羽、アヒル12羽、ハト６羽、シチメンチョウ４羽、タカ２羽、フクロウ１羽、シャモ1羽、キジ1羽、チャボ1羽、ウコッケイ1羽、マガモ1羽、カメ３匹、その他ハツカネズミ、コイ、キンギョ

昭和29年 (1954)
小諸市誕生
4月1日
クジャクの孵化に成功　６羽

昭和30年 (1955)
クジャク５羽孵化
4月


ニホンジカ飼育場




ニホンザル

昭和 31 年 から 昭和 36 年
(1956年 ～ 1961年)

昭和31年 (1956)
キュウカンチョウ、オナガドリ６羽、仔ガメ、ヨタカ、トビ、アナグマ寄贈を受ける
4月

7月 ポニー　来園

昭和32年 (1957)
ライオン姉弟２頭　来園
（愛称 キング　オス、チェリー　メス）（飯田市動物園生まれ）
3月

4月 動物園有料化
大人（12歳以上） 20円
小人（６歳以上） 10円

7月 カルフォルニアアシカ１頭
フンボルトペンギン２頭　来園

昭和33年 (1958)
アカカンガルー１頭（オス）来園

昭和34年 (1959)
ライオン（愛称 チェリー メス）死亡

昭和35年 (1960)
ライオン（愛称 キング オス）死亡

昭和36年 頃
ライオン1頭（愛称 浜子　メス）来園

昭和36年 (1961)
春の写生大会　約3,500人参加
4月

6月 トラ１頭（愛称　富士雄　オス）来園

シカ２頭　誕生
セキセイインコ、ガチョウ　来園

7月 インドクジャク２羽　孵化
インドクジャク８羽、白クジャク４羽を飼育


当時の入場券　上　表面　下　裏面



当時の入場券　価格部分拡大


トラ（富士雄）

100年のあゆみ History of 100 years

昭和 37 年 から 昭和 43 年
(1962年 ～ 1968年)

昭和37年（1962）
グンカンドリ保護飼育
アネハヅル２羽（オス･メス）来園

4月 カンガルー２頭（オス･メス）来園

67種、265点を飼育

5月 キツネ１頭、タイワンザル５頭来園

6月 インドゾウ（愛称 タイ子　メス）来園

9月 コクチョウ２羽（オス・メス）来園

昭和38年（1963） トラ（愛称 富士夫 オス）、ライオン（愛称 浜子 メス）死亡

昭和39年（1964） カリフォルニアアシカ（オス）、フンボルトペンギン２羽（オス・メス）来園

6月

7月 インドゾウ（愛称 タイ子 メス）病気のため急死

10月 チンパンジー（愛称　アコちゃん　メス）江の島水族館より　来園

昭和40年（1965） インドゾウ（二代目タイ子　メス）来園

3月

昭和41年（1966） チンパンジーのアコちゃん人気ものとなる

昭和42年（1967） エミュー（オス）死亡

昭和43年（1968） アシカ誕生

ライオン2頭来園
愛称 フジオ（オス）･ハマ子（メス）


インドゾウ（初代 タイ子）


当時のインドゾウ舎


カリフォルニアアシカのエサやり

昭和 44 年 から 昭和 48 年
(1969年 ～ 1973年)

昭和44年（1969） シカ舎完成、カンガルー舎新設

9月 ベニコンゴウインコ（オス）来園

昭和45年（1970） オオカンガルー２頭（オス・メス）来園

4月

7月 カニクイザル双子誕生

仔グマ２頭保護飼育

昭和46年（1971） 入園料値上げ
大人３０円→５０円、
小人は据え置き

4月

ライオン（愛称 フジオ オス）死亡

昭和47年（1972） カンガルー（オス）破傷風のため死亡

2月 カンガルー誕生

8月 ライオン（愛称　多摩子 メス）多摩動物公園より来園

ハクビシン　長野県で初めての保護飼育

昭和48年（1973） チンパンジー（アコちゃん）死亡

3月 フンボルトペンギン２羽（オス・メス）来園

4月 東京都井の頭自然文化園より
エミュー（オス）来園
フラミンゴ６羽、カンムリヅル２羽　来園

10月 チンパンジー（愛称　マッキー　オス）多摩動物公園より来園


インドゾウ（２代目タイ子）


遠足でにぎわう動物園入園口
（昭和40年代）


フンボルトペンギン

100年のあゆみ History of 100 years

昭和 49 年 から 昭和 58 年
(1974年 ～ 1983年)

昭和49年（1974）
フラミンゴ舎完成　１５羽飼育
8月

昭和52年（1977）
アジルテナガザル、フサオマキザル　日本モンキーセンターより来園

昭和53年（1978）
オオカンガルー死亡
パルマワラビー来園

昭和55年（1980）
白鶴橋の架け替え工事が完了
4月

12月　ペンギン１羽来園

昭和56年（1981）
インドゾウ舎拡幅完成
ペンギン１羽来園
5月

昭和57年（1982）
懐古園入園　有料化
大人200円、子ども100円　藤村記念館、動物園、火山博物館、小山敬三美術館、徴古館は無料化
4月１日

ニホンカモシカ来園
（県内では市立大町山岳博物館についで２番目）

10月　ニジキジ２羽（オス・メス）、ハイイロヤケイ、カラヤマドリ３羽、キンイロキンケイ２羽（オス・メス）来園

12月　パルマワラビー（オス）誕生

昭和58年（1983）
68種555点の動物を飼育


チンパンジー（マッキー）


キンイロキンケイ


ギンケイ

昭和 59 年 から 平成 3 年
(1984年 ～ 1991年)

昭和59年（1984）
ニホンカモシカ誕生
6月

昭和60年（1985）
ライオン兄妹（オス・メス）横浜市立金沢動物園より来園
3月　愛称　金太　オス、沢子 メスに決定

12月　オオハクチョウ１羽保護飼育

昭和61年（1986）
オオハクチョウ死亡
1月

5月　ヤクシマヤギ３頭、エミュー２羽雪印こどもの国牧場より来園

オオミズナギドリ６羽保護飼育

11月　インドゾウ（愛称 タイ子 メス）死亡

昭和62年（1987）
コバタン保護飼育
ミシシッピアカミミガメ保護飼育

昭和63年（1988）
ジェフロイクモザル（メス）
東京都恩賜上野動物園より来園

平成元年（1989）
ヒクイドリ２羽（オス・メス）来園
9月

平成２年（1990）
ジェフロイクモザル（メス）
長野市茶臼山動物園より来園

平成３年（1991）
フンボルトペンギンのヒナ３羽孵化（６月、９月に２羽死亡）
5月

66種311点の動物を飼育


エミュー


ルリコンゴウインコ（ルリ）と
ベニコンゴウインコ（ベニ）

動物園のウェルカムアニマルとして
来園者をずっとお迎えしていた

100年のあゆみ History of 100 years

平成 4 年 から 平成 13 年
(1992年 ～ 2001年)

平成４年（1992）
フンボルトペンギン　２羽孵化

ダマジカ２頭（オス・メス）来園

平成６年（1994）
フンボルトペンギン雛１羽死亡
キュウカンチョウ１羽来園

平成７年（1995）
２月
ニホンザル（愛称　大聖（たいせい）　オス）保護飼育

平成８年（1996）
南谷にシカの放し飼い展示場完成

ハクビシン２頭（オス・メス）来園

平成９年（1997）
懐古園入園料値上げ
大人400円　⇒　600円
小中学生200円　⇒　250円

平成10年（1998）
ライオン（愛称 金太（きんた）　オス）死亡

平成11年（1999）
ムササビ1頭保護飼育

グリーンイグアナ保護飼育

平成12年（2000）
６月
ムササビ（オス）保護飼育

平成13年（2001）
４月
懐古園入園料値下げ
共通券600円 ⇒ 500円、
散策券300円を新設

ツキノワグマ（オス）老衰のため死亡

ケヅメリクガメ　保護飼育


ニホンザル（大聖）


ハクビシン


グリーンイグアナ

平成 14 年 から 平成 20 年
(2002年 ～ 2008年)

平成14年（2002）
６月
ツキノワグマ保護飼育
（愛称　力（リキ）　オス）

９月
ふれあいイベント開催
「動物園裏側探検ツアー」
「動物教室（小中学生対象）」

平成16年（2004）
１月
ライオン（愛称 沢子（さわこ）　メス　死亡

11月
ライオン２頭多摩動物園より来園
（愛称　カイ　オス・ナナ　メス）

平成17年（2005）
１月
アイガモ3羽来園

平成18年（2006）
５月
「ふれあい動物園」開催

平成20年（2008）
５月
ゴールデンウイークふれあいイベント開催

８月
信濃毎日新聞東信版に「小諸市動物園　飼育にっき」連載

９月
チンパンジー（愛称　マッキー　オス）死亡

10月
秋のふれあいイベント開催


ツキノワグマ（リキ）


ライオン（カイとナナ）


ふれあいイベント

100年のあゆみ History of 100 years

平成 21 年 から 平成 24 年
(2009年 ～ 2012年)

平成21年（2009）

コクチョウ（オス）
飯田市動物園より来園

4月

川上犬（愛称　さくら　メス）
川上犬保存会より来園

5月～6月 サドヒゲジドリ、トウマル、キンケイ、ギンケイ、アイガモ　孵化

6月 オシドリ４羽自然繁殖

7月 広報こもろに「こもろ動物園物語」連載（荻原恵美子著）
夏休み飼育体験開催

10月 フサオマキザル誕生

12月 動物園ツイッター開始

平成22年（2010）

3月 フンボルトペンギンの遺伝的近縁関係の調査（日本動物園水族館種保存委員会）

動物園調理室新築

5月 ヤクシカ9頭誕生
（4頭死亡）

7月 飼育体験（小学生対象）実施

平成23年（2011）

11月 須坂市動物園フォーラム
「信州の動物園人に求められること、求めること　～１００年後を目指した現地職員の在り方～」

平成24年（2012）

8月 「ナイトZOO」初開催



川上犬（さくら）



飼育体験でペンギン舎を清掃



ナイトズー ムササビの滑空を披露

平成 25 年 から 平成 27 年
(2013年 ～ 2015年)

平成25年（2013）

シメ保護飼育
1月 ２月　放鳥

4月 ゴールデンウイークふれあいイベント開催

10月 ポニー（愛称　すみれ　メス）来園

平成26年（2014）

2月23日 シンポジウム「小諸市動物園を考える」開催（主催：成城大学法学部打越綾子研究室）

4月 ライオン（カイ）死亡

5月 乗馬体験「シカ谷散策」開始

ホンドタヌキ（愛称　はな　メス）保護飼育

10月 「ふれあい」ひろばオープン
シバヤギ（愛称　メイ メス）来園

平成27年（2015）

2月23日 フンボルトペンギン
「もぐもぐぺたぺたタイム」開始

3月 サフォーク（愛称 るう　オス）来園

7月 平成２６年４月死亡のライオン「カイ」骨格標本として戸隠化石博物館へ寄贈

8月 フンボルトペンギン「流しアジ」開始

10月 村上春樹氏のウェブサイト「村上さんのところ」にてライオン「ナナ」を取りあげ、話題になる



ポニー（すみれ）　来園



ふれあい広場



「流しアジ」はじめました！

100年のあゆみ History of 100 years

平成 28 年 から 平成 30 年
(2016年 ～ 2018年)

平成28年（2016）

10月 長野県内の動物園共同制作『ZOO鑑』　発刊

12月 鳥インフルエンザ流行　防疫対策はじまる

56種297点の動物を飼育

平成29年（2017）

ライオン咬傷事故

2月

4月 ムササビ3頭　保護飼育（愛称　ろろ、もも、ここ）

5月 ミニブタ(愛称　イズミ（メス）、キヨシ（オス）、ユウキ（オス））入園

7月7日 ライオンのナナにちなんで「ナナの日」に決定

8月 図書館とコラボイベント「見て調べて行こう！」ガイドツアー、モルモットふれあいワークショップ（図書館）

平成30年（2018）

フリーマガジン「どうぶつのくに」川上犬「さくら」　特集

1月

3月 動物園テーマキャラクター　お披露目会（専門学校日本デザイナー学院協賛）

6月 信州飼育の集い　小諸で開催

8月 「夏休みは図書館に行かZOO」開催

9月30日 「小諸市動物園の再整備に向けての市民シンポジウム」開催



ナナの日


秋イベント　動物園で読み聞かせ


図書館でモルモットのふれあいワークショップ

令和 元 年 から 令和 2 年
(2019年 ～ 2020年)

令和元年（平成31年）（2019）

「小諸市動物園再整備に向けての市民懇談会」開催

2月19日

3月 フンボルトペンギン誕生（愛称　マリン　メス）

6月 ルリコンゴウインコ（愛称　ピー（オス））来園

10月 市民有志による「小諸市動物園を支える市民の会」発足

12月 小諸市動物園再整備計画案　パブリックコメント実施

12月15日 市民懇談会　開催

令和２年（2020）

「小諸市動物園再整備基本計画」策定

1月

9月 ルリコンゴウインコ（愛称　ヒリュウ）、タイハクオウム（愛称　コハク）　来園

臨時休園　再整備計画による獣舎解体工事始まる

10月 ヤクシカ、エミュー、シバヤギ、ホオジロカンムリヅルなど譲渡

11月 佐久市こども未来館「ハヤブサ講座」実施

12月 フンボルトペンギン移動
東京都葛西臨海水族園、新潟市水族館マリンピア日本海へ

哺乳類18種、鳥類23種、爬虫類５種　計46種を飼育


フンボルトペンギン「マリン」誕生


解体前のシバヤギ舎


佐久こども未来館「ハヤブサ教室」

100年のあゆみ History of 100 years

令和３年 から 令和５年
（2021年 ～ 2023年）

令和３年（2021）

5月 再整備工事のため休園（令和４年４月末まで）

11月 大人のための飼育体験

令和４年（2022）

3月 フンボルトペンギン舎、ふれあい休憩所（モルモット舎・パンダマウス舎）完成
フンボルトペンギン8羽　再来園

4月29日 第１期整備竣工
リニューアルオープン

6月 ヒツジの日
「ヒツジのショーン」と SNSコラボ

8月 「ナイト ZOO」開催

令和５年（2023）

京都大学霊長類研究所「テナガザルの歌の個体内変異に関する研究」でクロが研究対象になる

4月 「小諸市動物園再整備基本計画」の再検討

飼育の日（4.19）イベント開催

5月 子ども環境情報誌『エコチル』長野版「動物園だより」隔月掲載

7月 部分休園（～９月末予定　第２期整備に伴う獣舎解体のため）

8月 「ナイト ZOO」開催

8月 みんなの動物園写真展

11月 合格祈願イベント　「落ちない！『めい』のgoat角祈願」開催



フンボルトペンギンが帰ってきた



ふれあい休憩所　完成



第１期再整備 リニューアルオープン

令和６年 から 令和７年
（2024年 ～ 2025年）

令和６年（2024）

6月 第２期整備工事のため部分休園

7月 動物園の思い出募集

8月 遊園地夏の感謝祭で出張動物園開催

9月 まるごとつながるフェスタ佐久平で出張動物園　開催

10月 クラウドファンディング「小諸市動物園第２期整備で動物たちに快適な住環境を！」

動物園オリジナルカレンダー販売

令和７年（2025）

第２期整備工事による全面休園

1月

2月 ペンギン舎、ムササビ舎のYouTubeライブ配信　開始

ポニー2頭（愛称　ポン太　オス、モカ　メス）寄贈される

2月22日 猫の日イベント
長野市茶臼山動物園・須坂市動物園とコラボ「ねこねこペーパー」作成
小諸市動物園からライオンの「ナナ」掲載

4月～5月 プレ オープン（めえめえ牧場 他）

6月 第２期整備工事（2年目）による全面休園

6月～10月 しなの鉄道コラボイベント
小諸駅　わくドキ体験広場　開催

7月 バックヤード探検ツアー　開催

令和８年（2026） **4月26日**
開園100周年リニューアルオープン



「小諸駅　わくドキ体験広場」　出張動物園



「ねこねこペーパー」ナナのページ



バックヤード探検ツアー

みんなの思い出の小諸市動物園

子供たちが小さかった頃は、桜や秋の紅葉の時期にはお弁当のおにぎりをもって家族で懐古園へよく出かけました。



馬場でお弁当を食べ、動物園へ。読みきかせていた絵本の影響もあって、ライオンが大好きだったのですが、おそらく動物園の配慮もあったと思います。ライオンの前には植え込みがあって、子供達が近づきすぎないようにとの安全策だったと思うのです。ただ、身長の低い幼児の目線ではライオンが見えず、見るためには親に抱きあげてもらわないと見えませんでした。ただ、うちの子供は３人。親は二人、交代で抱っこしてもらって見るようだったのです。帰りに、できたら、生垣の前に子供でも見える高さの踏み台があったらと要望を書いてきたところ、次に行ったときは希望通りの踏み台が置かれていて、感激した思い出があります。

ささやかではありますが、大きなプレゼントをいただいたような気分でした。３人が並んでライオンを見ている後ろ姿は今でも覚えています。

小諸市　白鳥（しらとり）　五月（さつき）　様

小学生のころ、学校で行った動物園の写生大会。カラフルなインコの絵をかいていたら、道行く人に「上手だね」とほめてもらい嬉しかった思い出があります。

他にも遠足や、両親と動物を見た記憶が残っています。それから二十数年たち、他県にお嫁に行きました。里帰りをしたときは息子を連れて両親と小諸市動物園を訪れています。

リニューアルしたペンギン広場も涼し気な色の建物で、息子も気に入っています。親子3代で来ることができ嬉しかったです。100周年の時は年長さんになる息子。また皆で訪れたいと思います。

富山県　久田（ひさだ）　日出子（ひでこ）　様

幼少のころ、仕事が忙しく休日も働いていた両親が時々連れて行ってくれたのが小諸の動物園でした。行けるのがとても楽しみで、前日からワクワクしていたのを覚えています。



園内に入ると、大きく色鮮やかなオウムが数羽木にとまっているのに出会いました。繋がれていたとは思いますが、外にいたので側まで行き、ご挨拶することができました。すると、自分の被っていた帽子をオウムにとられてしまい、ビックリしたことがありました。それが一度だけではなく、行く度に取られてしまい、両親がオウムから返してもらっていた淡い記憶があります。まだ小さかったので、オウムが遊んでくれたのかな？と思うと、懐かしく楽しい素敵な思い出として心に残っています。

少ない休日で疲れているにも関わらず、小諸の動物園まで連れ出してくれた両親に心から感謝するとともに、今でも動物園を支えてくださっている皆々様に厚く御礼申し上げます。

これからも、素敵な思い出作りのお手伝いを宜しくお願い致します。

以上、ささやかな思い出ですが、綴らせていただきました（＾＾）

立科町　宮越（みやこし）　照子（てるこ）　様

今から半世紀以上も昔のことである。当時2歳だった私は、両親と小諸市動物園へ出かけた。動物が大好きな私は、とにかくうれしくて、楽しくて、夢中になって園内を駆け回っていた気がする。フラミンゴの優雅な立ち姿、象の大きさに圧倒されたり、チンパンジーがキャッキャッと笑い声を立てる姿にあっけにとられたりしていた。中でもライオンのおりの前で、私は足を止めて動かなくなった。堂々としていて気高くて、幼心にも「百獣の王」という言葉が頭をよぎった気がした。かっこ良かった。



あの頃からずっと、こどもや小諸市民に動物とのふれあいや、生で見られる喜びを与え続けてくれている。そんな園に心から感謝しているし、50を過ぎた今でもたまに園内を覗きたくなる。楽しいからだ。これからも小諸市の宝であってほしいと願っている。

小諸市　柳澤（やなぎさわ）　知佳子（ちかこ）　様

みんなの 思い出の小諸市動物園

動物が大好きだった私（当時１歳９か月頃）を祖父が、度々小諸市動物園に連れて行ってくれました。

この写真は50年ほど前の写真ですが、当時、園内でたくさんの大きな動物たちを観て疲れてしまった私を祖父が抱っこしてくれた時の写真です。

現在も時折、小諸市動物園に足を運んでいます。当時、祖父と通った小諸市動物園を懐かしく思い出しています。



小諸市　赤池（あかいけ）　千鶴（ちづる）　様

少年時代の小諸動物園は玉手箱

今から60年前、千曲小学校の児童だった私は懐古園・動物園は身近な存在でした。昭和37年に開催された春の写生大会は動物園通りには人がびっしり。特にアシカ・ライオン・サルの周りには写生もできないほどの賑わいでした(記録では4000人参加とか)。絵の下手な私も何とか頑張って写生会参加。その絵が学校の授業で褒められたのは懐かしい思い出です。

その後チンパンジーが来てトラや二代目ライオン・カンガルー・そして象が来てますます充実した動物園になっていきました。私は学校を卒業して東京の大学へ。そして神奈川で教員になり、それからUターンした今懐古園・動物園に行くたびに少年時代がよみがえります。小学生や保育園の遠足に出会うたびに、この子達も故郷が動物達と一緒の記憶に刻まれるだろうなと思うのです。

小諸市動物園を支える会　望月（もちづき）　久和（ひさかず）　様

未来の小諸市動物園に向けて

ガールスカウト長野県第17団　ジュニア部門（小5）　荒井（あらい）　千紗（ちさ）　様

小諸市動物園で一番印象に残っているのは、モルモットの行進です。

レールの上を、ヨチヨチおしりをプリプリしながら歩く姿がとてもかわいかったです。

そんなかわいい動物たちのために、私は小諸市のガールスカウトで毎年「動物えさ募金」をやってきました。最初は声を出すのが恥ずかしかったけど、動物のためにと思ったら、だんだんと大きい声を出せるようになりました。動物のために募金をしてくれた人への感謝の気持ちも大きくなりました。

私は、家から気軽に行ける小諸市動物園が大好きです。これからもどんどん新しくなってきれいに変わっていく動物園を見るのもとても楽しみです。50年後、100年後、私がおばあさんになってもまた行きたくなるような動物園でいてほしいです。



ガールスカウト長野県第17団　シニア部門（中２）　柳澤（やなぎさわ）　柚羽（ゆう）　様

私が覚えている小諸市動物園の古い記憶は写生大会です。まだ園児だったので記憶は曖昧ですが、卯年の私は大好きなウサギの絵を描きました。絵の具での色塗りが大変でしたが賞をもらうことができたので、とても嬉しかったのを覚えています。現在の動物園はリニューアルされ、老若男女問わず、親しみやすい動物園になっていると思います。私の一番好きな場所は、「崖上のペンギン村」です。アクリルガラスから水中で泳ぐペンギンが見られるのが嬉しいです。まだ一度も「流しアジ」の様子を見たことがないのでいつか見てみたいと思っています。

私は今まで小諸市動物園のえさ募金活動に何度か参加したことがあります。来園した人たちに声がけをして、えさ代の募金を集めました。動物たちには私たち人間と同じようにおいしいご飯を食べて、来園した人たちを楽しませて欲しいと思います。今回はこのような沢山の思い出がつまった小諸市動物園が100周年を迎えたことはとてもうれしいです。祖母からは長野県で一番古い動物園だと聞いたことがあります。これからも色々なイベントなどで多くの人たちが足を運んでくれることを願います。

そして、今後50年、100年先までこの小諸市動物園が続き、県内だけでなく日本中の人たちにここの魅力が伝わると良いなと思います。

ガールスカウト長野県第17団　レンジャー部門（高１）　渡邉（わたなべ）　稀心（きみ）　様

動物園にはたくさんの思い出がありますが、特に私と同じ名まえのペンギンがいたことをよく覚えています。今は別の水族館にいますが、初めて同じ名前の友達に会えたのでとても嬉しかったです。動物園ではかわいい名前を発見したり、新しく来た動物の名前をみんなが考えることもできます。いろんな人の愛情が詰まった名前にも注目してほしいです。

小諸市動物園は家族で、学校で、ガールスカウトで、何度も来た大好きな場所です。改装し、前よりも綺麗におしゃれになっている動物園。これからもっとたくさんの人の大好きな場所になってほしいです。





ペンギンの『しろちゃん』が踏み出した一歩

もぐもぐペタペタタイム 誕生秘話

（元飼育員）　吉川（よしかわ）　晶子（あきこ）　様

「ペンギンのもぐもぐぺたぺたタイム」は、ペンギンとお散歩ができるイベントとして人気ですが、イベントをはじめたきっかけは病気を治療するためでした。７年前、小諸市動物園にいた９羽のペンギンのほとんどが「趾留症（しりゅうしょう）」といわれる病気にかかっていました。この病気は、足裏にタコのようなものができ、そこから雑菌が入ると全身に回って命を落とすこともあるといわれています。


趾瘤症を発症した足裏

動物園のペンギンは運動不足になりやすく、それが原因の一つと考えられていました。そこで、運動もできて、なおかつ来園者の皆さんにも喜んでもらえるよう、園内をお散歩する「ペンギンのもぐもぐぺたぺたタイム」を考案し、さっそく練習を始めました。

ところが、練習は思うように進まず、餌のアジを使ってもなかなか扉から出て来てくれません。苦労続きの毎日でしたが、そんな中、『しろちゃん』というペンギンだけが、一歩一歩外に出てきてくれるようになりました。すると、他のペンギン達も『しろちゃん』につられて、あとに続いてくるようになりました。
練習開始から３年が経ち、『もぐもぐペタペタタイム』はカタチになりました。


「しろちゃん」

そして、ペンギン達の「趾瘤症」も治まり、今は足裏もきれいになりました。

残念ながら、みんなを引っ張ってくれた『しろちゃん』は、昨年春に23才という長寿を全うして亡くなりました。『しろちゃん』の踏み出した一歩が、小諸市動物園の大きな一歩だったと私は思います。

天国の『しろちゃん』のためにも、動物たちが健康に暮らせ、皆さんに愛される小諸市動物園を目指して、飼育員一同頑張っていきたいと思います。

平成31年広報こもろ１月号より


練習で先頭に立つ「しろちゃん」

流しアジのおはなし



（元飼育員）　中津久美子（なかつくみこ）　様

ペンギンの趾瘤症の治療、予防のためにはじめたお散歩「もぐもぐぺたぺたタイム」はペンギンたちにも来園者にも楽しい時間を提供していました。その中で、ペンギンたちに泳いでる魚をあげたら喜ぶのではないかとの考えが浮かびました。しかし、生きたアジを購入することはできません。それなら泳いでるように動かしてみてはどうか？というわけで水の流れを作るための雨樋を１本用意しました。新しい物が苦手なペンギンたちに、まずは雨樋に慣れてもらわないといけません。案の定、雨樋を持ってドアをあけるとペンギンたちは走って逃げてしまいました。時間をかけて雨樋に慣れてもらい、雨樋の上でアジを与えて、雨樋からアジを食べられるようになりました。

「このペンギンたちの姿を来園者のみなさんにも見てほしい」と思い、イベントとして始めることにしました。イベント名は「流しそうめん」ならぬ「流しアジ」として、ポスターも作りました。2015年夏のことでした。

それから、「流しアジ」は小諸市動物園を代表する人気イベントとなっていきます。

イベントでは、雨樋に置く前のバケツからアジを食べてしまうペンギンもいたりしていろいろと工夫を凝らしながら、雨樋を１本から２本、そして４本へと延長していきました。その後、お客様がより見やすいようにと茶色い雨樋から透明なパイプに変更しました。パイプを置く台や水を最後に溜めるコンテナも何度か改良を重ね、毎年、工夫と努力で「流しアジ」は進化していきました。

新しいペンギン舎となった現在、2015年当時から飼育しているペンギン【ボー】といっしょに新しい７羽のペンギンたちに流れるアジを食べる楽しさを知ってもらおうと流しアジに向けた練習をしています。

これからもペンギンたちが楽しい日々を送れるように、そして来園者のみなさんが楽しんでいるペンギンたちを見ていただき、新たな発見ができるようにいろいろな取り組みをしていきたいと飼育員は日々努力しています。







動物園の人気者紹介

川上犬【さくら】



川上犬とは…



長野県南佐久郡川上村原産の日本犬です。とても希少な日本犬で、長野県の天然記念物に指定されています。

猟犬であるため、勇敢で賢い性格と高い運動能力をもったとても優秀な犬種です。また警戒心が強く、飼い主への忠誠心が強く誰にでもなつく性格ではありません。現在は頭数も減ってきている状況です。











【さくら】について



警戒心が強く忠実で誰にでも馴れる性格ではありませんでした。

しかし、仲が深まるととっても甘えん坊で寂しがりやでお散歩やボール、泥遊びが大好きでした。愛嬌のある表情や凛々しい姿をみせてくれたさくらにありがとう。そして、たくさんの方に愛されていました。

略歴
平成21年（2009） 1月 23日 生まれ
平成21年（2009） 4月 小諸市動物園へ来園
令和 6 年（2024） 9月 23日 老衰のため亡くなる（15歳）

動物園の人気者紹介

ライオン






ライオンとは…

ネコ科の肉食動物で、昼間は寝ていることが多く、夜に活発に活動しています。他のネコ科動物と違い、オスとメスで姿が異なり、オスはたてがみを持ちます。

また「プライド」という群れを作り生活することもライオンのみの特徴です。日本国内の最高齢の記録は25歳となっています。







【ナナ】について

2004年に小諸市にやってきたナナはライオンの平均寿命を超え、のんびり過ごすおばあちゃんライオンです。

表情豊かで、凛々しい顔立ちが魅力的です。大好物はお肉！特に骨付きシカ肉です。

誕生日会ではお肉ケーキや骨付き肉を嬉しそうに食べます。ナナは遠吠えをします。部屋の移動をしたときやお腹がすいたとき、寝室に入りたいときなどよく吠えます。飼育員にとってこの遠吠えは、【ナナ】の健康チェックの１つになっています。



【カイ】について

ナナと同じく多摩動物公園から小諸市動物園へきました。立派なたてがみがありナナと並んでとても人気がありました。

略歴
平成13年（2001）11月 15日 生まれ
平成16年（2004）11月 ナナと共に動物園へ来園
平成26年（2014） 4月 17日 腎不全のため亡くなる（13歳）




未来へつなぐ飼育のこころ

Q あなたの考える小諸市動物園の魅力はどんなところだと思いますか。



イベントや動物舎の内装など飼育員が考えて作っているものが多く、手作り感がありアットホームな雰囲気があるとこや、担当者の色が濃く出ているところが動物園の魅力だと思います。寄付や誕生日プレゼントなどを毎年いただき、市民やファンの方々に愛されているところも小諸市動物園ならではだと思います。



来園者と動物の距離が近く、動物を身近に感じられ、また飼育員が来園者と同じ道を歩くことが多いので、声をかけやすいところに魅力を感じます。



「懐古園」という歴史的な景勝地にあり、桜や紅葉と季節とともに動物を見ることができます。
来園者と動物との距離が近いところも魅力かなと思います。

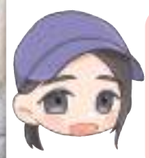





Q 小諸市動物園100周年についての想いや動物園での思い出を教えてください。



小諸市動物園で８年お世話になっていますが、100周年というすばらしい節目に立ち会えることはとても光栄なことだと思います。想えば色々なことがありました。
市民の方にご心配をおかけすることや今回の工事でご不便をおかけしてしまいましたが、無事100周年を迎えることができました。本当にありがとうございます。
個人的な思い出は川上犬【さくら】との日々とライオン【ナナ】と過ごしている今が一番の思い出になっていると思います。
自分が担当した動物との日々はとても忘れがたい思い出です。



大正から令和までの長い年月を戦争や災害など様々な変化を乗り越えながらこの動物園が守られてきたのは、毎日動物たちと向き合ってきた飼育員や地域の方たち、来園してくださったみなさん、子どもたちの笑顔のおかげだと思います。
100周年を迎えもっと地域のみなさんに愛される動物園になって欲しいと願います。



100周年に向けて、前にいらした飼育員の方からもいろいろ話を聞き歴史をとても感じました。
これからもたくさんの人に愛される動物園になっていってほしいです。



リニューアル工事が本格的に始まった時から飼育員として働いていますが、新しくなった小諸市動物園はもっとおもしろく、もっと楽しく、遊びに行きたくなるような動物園になっていくと思います。
来たことがある方も、まだ来たことのない方も、100周年でリニューアルオープンした際にぜひ遊びに来てほしいです。



小さい頃から来ていた動物園で1番身近な動物園です。
そんな場所で自分の夢を叶えられていることが1番の思い出です。
100周年に向けて獣舎の新設や新しい動物を迎えたり、新たなイベントの開催のため動物たちと一緒に準備を進めているのでたくさんの方に来園していただきたいです。



自分よりも約５倍も前からあって今も残っている場所で働けているので更に何十年も続いていかなければいけないと思います。



記念すべき100年という年に立ち会えたことを嬉しく思います。
高校の実習でお世話になり実際に働いている事に驚いています。



2025年は工事で休園中のため、動物園を出て駅前で出張動物園を開催しました。来ていただいた方から「子どもの頃に行った。何十年ぶりに行きたい」と声をかけていただき、改めて長野県内最古の動物園としての歴史の長さと多くの方に愛されてきたのだととても感じました。
100周年を迎えきれいになった獣舎でのびのび過ごす動物たちに、多くの方に癒されに来ていただきたいと思います。
また普段と違う100周年の特別なイベントも楽しんでいただければいいなと思います。

Special Thanks






日頃から動物園の動物たちに野菜や果物、お肉などをご寄付いただきありがとうございます。
また毎年動物たちの床材としてウッドチップやもみ殻、わらをご提供いただいています近隣住民の方々にも改めて感謝申し上げます。
休園中でもSNSのコメントやお手紙などであたたかいお言葉をいただき、とても励みになっています。今後とも皆さまに支えていただきながら動物園の運営を頑張っていきますので、これからも小諸市動物園をどうぞよろしくお願いします。

飼育員一同

こんなイベントやってきました

エサやり体験



ふれあい体験



ポニー乗馬体験



ポニーに乗って広場を1周する体験をしました。

敬老の日



高齢の動物たちに感謝状を渡しその動物たちを紹介するガイドを行いました。

秋のうきうき



図書館スタッフによる絵本の読み聞かせ会や動物になりきっての撮影会を行いました。

ハロウィン



動物たちにかぼちゃをプレゼントしたりフクロウのガイドを行いました。

流しアジ



といに流れるアジをペンギンたちが上手に食べる姿をみてもらいました。

飼育の日



4月19日のごろあわせで飼育員の仕事の紹介をし、体験してもらいました。

春のわくわく

手形で作るこいのぼりアートや母の日のプレゼントづくりなど様々なイベントを行いました。



クリスマス



クリスマスツリーを飾ったり動物たちへプレゼントをしました。

干支看板



門松をつくってかざり干支の顔出し看板を作成しました。

合格祈願



“落ちないヤギの角”にふれあい受験生を応援しました。

写生大会



動物園内で動物たちを描いてもらいました。

ふーどまつり

相生会館で行われるふーどまつりへ参加し動物のふれあい体験を行いました。



動物の日ガイド

動物のガイドを通して、動物たちが置かれている状況を知ってもらい、環境保全の大切さを考えてもらいました。



動物ふれあいパレード



懐古園内を動物たちを連れて練り歩きふれあい体験や写真撮影をしました。

誕生日会



動物たちの好物を使いケーキを制作しプレゼントしました。

七夕



笹にエサをつけてサルたちに与えたり短冊に願い事を書いて飾りました。

NIGHT ZOO



ムササビの滑空する姿やライオンのエサやりの様子など夜行性動物の活発な姿をみてもらいました。

出張動物園



遊園地や駅前など動物園を出てふれあい体験を行いました。

クイズラリー



動物に関するクイズに挑戦してもらい正解者にオリジナルの景品をプレゼントしました。

SNS

写真コンテストやひつじのショーンコラボイベントを行いました。



小諸市動物園の取り組み

職場体験受け入れ・出前授業



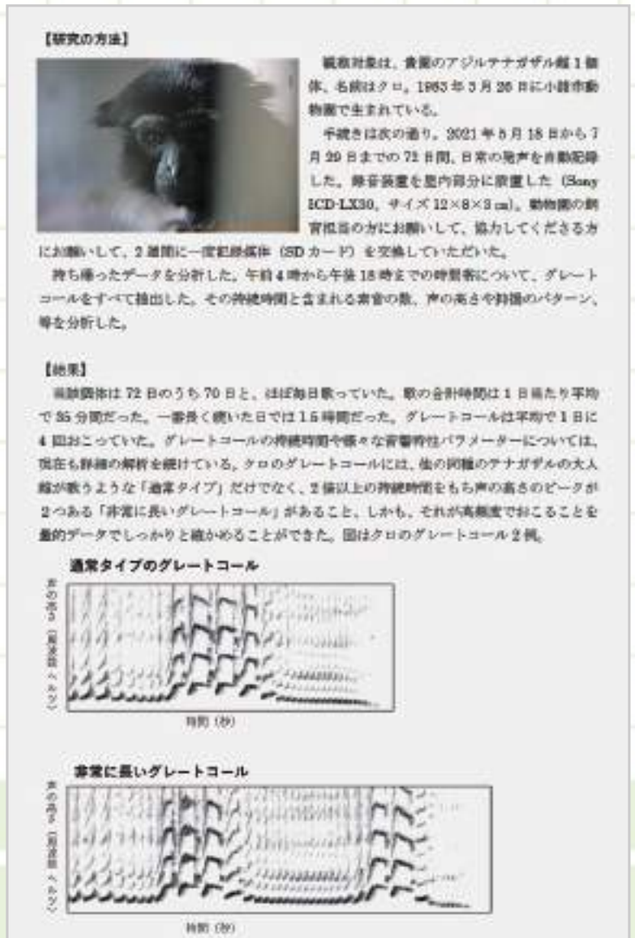
動物園では職場体験やインターンシップとして、毎年小学生から大学生、専門学生の実習を受け入れています。なかには実習での経験を生かし、飼育員として働く方もいます。
動物の生態や飼育員の仕事を知ってもらうために、出前授業やふれあい学習遠足の受け入れも行っています。

研究協力

アジルテナガザルの特徴的な鳴き声「歌」の柔軟性を研究するため、小諸市動物園の【クロ】の歌を録音し調査しました。
【クロ】は通常タイプのグレートコールだけでなく、非常に長いグレートコールが確認されました。



京都大学ヒト行動進化研究センター
打越万喜子研究員による報告書



【研究の方法】

観察対象は、食園のアジルテナガザル雌1個体、名前はクロ。1983年3月26日に小諸市動物園で生まれている。

手続きは次の通り。2021年5月18日から7月29日までの73日間、日常の発声を自動記録した。録音装置を屋内部分に設置した（Sony ICD-LX30、サイズ12×8×3cm）。動物園の飼育担当の方にお願いして、協力してくださる方にお願いして、2週間に一度記録媒体（SDカード）を交換していただいた。

持ち帰ったデータを分析した。午前4時から午後18時までの時間帯について、グレートコールをすべて抽出した。その持続時間と含まれる音節の数、声の高さや抑揚のパターン、等を分析した。

【結果】

被験個体は72日のうち70日と、ほぼ毎日歌っていた。歌の合計時間は1日当たり平均で35分間だった。一番長く続いた日では1.5時間だった。グレートコールは平均で1日に4回おこっていた。グレートコールの持続時間や様々な音響特性パラメーターについては、現在も詳細の解析を続けている。クロのグレートコールには、他の同種のテナガザルの大人雄が歌うような「通常タイプ」だけでなく、2音以上の持続時間をもち声の高さのピークが2つある「非常に長いグレートコール」があること、しかも、それが高頻度でおこることを量的データでしっかりと確かめることができた。図はクロのグレートコール2例。

通常タイプのグレートコール

非常に長いグレートコール

保護活動

当園では傷ついたり、親と離れてしまったりした鳥獣を保護して園内で飼育しています。
授乳が必要な幼獣は飼育員が交代で家に連れて帰り、3時間ごとにミルクを与えるなど人工哺育を行いました。





SNSの活用

X、Facebook、Instagramを使い、動物たちの日常の様子を飼育員の目線で発信しています。
2024年には公式ホームページがリニューアルし、2025年からはYouTubeチャンネルを開設しました。





動物園公式ホームページ

X（エックス）

Instagram

YouTube

Facebook



編集後記

100年間の小諸市動物園の歩みを振り返るこの記念誌の編集に携わり、感慨深い思いを持っています。動物たちとの触れ合いや、地域の皆さまの温かい支えがあってこそ、長い歴史を刻んでこられたのだと実感しています。

本誌では、動物園の歴史、飼育員の想い、訪れた方々の体験談など、多様な視点から小諸市動物園の魅力をお伝えしました。これまでの歴史や成長を振り返るだけでなく、未来に向けた展望や新たな挑戦もご紹介しています。

皆さまの支えを受け、さらなる発展を目指してまいります。動物園が地域や訪れるみなさまに愛され続ける場所であり続けるために、一層の努力を重ねていく所存です。

編集に際してご協力いただいたすべての方々に心から感謝申し上げます。今後とも小諸市動物園をご愛顧いただけますようお願い申し上げます。

小諸市動物園 開園100周年記念誌編集一同

小諸市動物園　開園100周年記念誌

発　　行	令和８年４月２０日
編　　集	小諸市懐古園事務所
印刷・製本	高橋印刷

表紙写真：ライオン（愛称ナナ　メス）

2022年（令和4年）7月撮影

2004年（平成16年）11月、多摩動物公園からオスライオン（愛称カイ）と一緒に小諸市動物園にやってきました。24歳をこえた高齢ライオンとなりましたが、令和８年４月現在でもその眼光は鋭く、小諸市動物園を代表する人気者です。


KOMORO ZOO
小諸市動物園
100
周年